

教育のじい・豊能
2020年8月29日
午後 1時半～
エトレ すてっぷホール
お話 桂 福点さんなど

教え子を再び戦場に送るな！ 2020年7月22日発行NO. 6 1 2

学校本格再開 コロナから学んだことは少人数数学級

分散登校が終わり、本格的に学校が再開して一か月です。本来なら夏休みに入るこの時期ですが、今年は夏休みが短縮され、暑い中での学習が8月7日まで続きます。

現場は人が足りない！ 人の配置を

通常の教育活動も感染予防など配慮しながら進めています。コロナ禍によって、消毒作業やオンライン導入にむけて等、教職員の仕事はまったく余裕がありません。それぞれどこか今年も、すでに産休代替の講師の配置に穴があくなど「欠員」状態の職場があります。

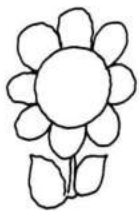
スクール・サポート・スタッフの全校への早急な配置が必要です。さらに本格再開になり教室に入りにくい子どもも増えてきており、そうした子どもへ個別に対応している現状を市教委（学校教育課）に伝え、さまざまな形での人員を増やすことを求めています。

スクール・サポート・スタッフ

豊中市は校舎の換気や消毒作業など教職員を補助する人の配置の予算化をおこなっています。

○期間 7月から3月まで
○基本週5日勤務
1日4時間

7月17日現在、配置が決まっているのは18校にとどまっています。



「密」をさける それは少人数 広がる声

「密」を避けようとしても40人学級だと避けようがない。そんな声が職場で聞かれます。

今回のコロナの経験から少人数学級を1の声広がっています。

○6月22日 全国連合小学校長会長「20人〜30人学級」と表明

○7月3日 全国市長会、全国町村会の団体長が文部科学省に「少人数学級の実施」を要請

全教豊中は少人数学級を進める立場から、今年初めて実現した長内市長の選挙公約である市費35人学級（今年度 小学校3年生対象）を来年度に小6年生まで実施することを求めます。

また、小学校中学校で、この数年毎年一〇〇名を超える慢性的「欠員補充」講師の配置する状態を解消するため豊能地区での教員採用の大幅増を求めます。

「子どもたちに20人学級をプレゼントしたい！ 市民の会」

豊中の退職した教職員が中心となって、「子どもたちに20人学級をプレゼントしたい！ 市民の会」を結成し、20人学級を求める署名に取り組み始めています。

7月26日（日）には午後2時〜4時で市民の会主催の「学校の3密を解消し20人学級の実現を！」をテーマに教育懇談会をおこないます。

場所 中央公民館



病休・介護休代替の臨時教職員

長期休業中の任用切れを廃止！

病休代替や介護休暇等の代替として雇用されている臨時教職員は、これまで長期休業期間は任用が切られていました。

大教組は府教委との交渉で病休・介護休暇代替の臨時教職員が長期休業期間中も任用継続を求めました。代替の臨時教職員が長期休業中、任用を

切られ定数が減った状態で学校運営をすることで、他の教職員の業務負担増になっていること。また、臨時教職員にとっては長期休業中、無収入になり生活不安になること。交渉で繰り返し改善を迫ってきました。府教委は「適切に対処していく」と回答。

長期休業中も任用が継続され「学期間雇用」が廃止となります。運用は8月1日から、「7月中の任用については申請があれば、協議により対応していく」としています。



2020年4月1日より「あらたな休暇制度」の紹介(一部)

○「不妊治療休暇」

- ▷対象 不妊治療を受ける職員(男女ともに取得可)
- ▷取得期間 年6日(日または時間単位)
- ▷給与 無給
- ▷備考 負傷又は疾病に起因する不妊(例:排卵・卵管・子宮因子や男性因子)で療養する必要がある、勤務しないことがやむを得ないと医師が判断(診断書)した場合、「病気休暇(有給)」の取得が可能。

※取得の際、本人のプライバシーに配慮。

○ボランティア休暇

- ▷取得期間 年5日(日単位)
- ▷取得条件 地震、暴風雨等二より相当規模の災害が発生した被災地等の支援活動
- ▷給与 有給

○LGBT等性的少数者の職員の休暇

- ▷取得期間 各休日の日数と同様
- ▷取得可能な休暇
 - ・特別休暇(結婚、服喪、妻の出産、男性の育児参加休暇、子の看護休暇 短期介護休暇)
 - ・介護休暇 介護時間

- ▷給与 特別休暇は有給 介護休暇・介護時間は無給

○「障がいのある職員の休憩時間」

- ▷取得期間 休憩時間の分割及び延長(15分単位)
- ※非常勤講師の方は対象になる制度とならない制度があります。

つなぐなの世界 ちよっとと見て歩き

ウクライナ編その7

世界各国の他の国に違わず、ウクライナにもいくつもの世界遺産がある。そのうちのひとつがリヴィウ歴史地区だ。ウクライナ西部、ポランドに近いこの地域は旧市街が丸ごと登録されている。今回、旅のついでに立ち寄った。

ここは17、18世紀の風情ある建築物がそこら中に立ち並んでいる。石畳もほぼそのままの形で残っており、なるほど美しい街である。小洒落た土産店は各国からの観光客でにぎわっている。「ああ、ここは観光地なのだ」と一人感心する。

ありがたいことに、リヴィウの旧市街地は割と狭い範囲に見どころが集中しており、半日もあれば何となく一回りできる。しかも観光地でありながらそこまで人が多くない。快適な気分です。教会や広場を中心に街をぶらつき、建物や小さな路地をのぞいていった。初めのうちは楽しく散策

できた。…が、残念なことにすぐに飽きてしまった。

“なんとか大聖堂”や“なんとか教会”は大体どこも似たようなものだ(あくまでも個人の感想です)。私はヨーロッパ建築にも詳しくないから“〇〇様式の…”と言われても“おお、きれいだ”で終わり。となると観光地ですることはおいしい酒と食べ物(しかも安い)の物色だ。幸い、街で(有名ならしい)チェリー酒を見つけた。かきつけて私には、明るいうちから飲む喜びに打ち震えつつ、ほろ酔い気分での終わりを締めくくったのであった。(終)

※コロナ禍のもと「全教とよなか」での紹介がこの間できまませんでした。

コロナ感染が新たな広がりを見せる中、海外どころか国内の旅行に出かけることも不安がいっぱいです。

テレビ等の旅番組も以前放映した内容を流しています。「全教とよなか」では現地へ行けなくても旅気分を味わえる記事を考えています。